

### 3) 市民が親しみ、育んできたふるさとの景観

#### 3-1 暮らしとともにある豊かな山々とその眺め

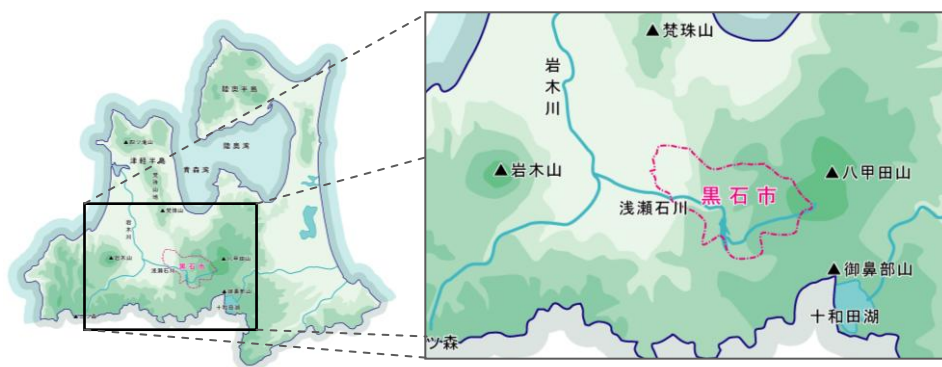
##### (1) 全市的なシンボルである岩木山、八甲田

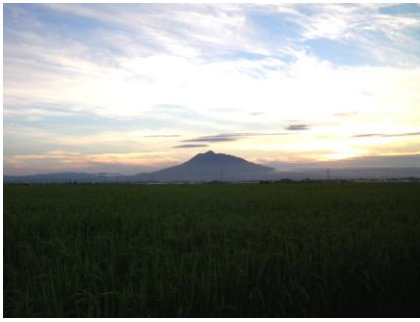
◇黒石市は、総面積の約8割を八甲田連峰に連なる山岳地帯が占めています。西部の平坦地は津軽平野の一部をなしており、西に津軽地域のシンボルである岩木山、東に深く険しい尾根とおだやかな稜線を持つ八甲田の山並みを望むことができます。

◇これらは、市内の学校校歌にも多数歌われており、全市的なシンボルとして親しまれているとともに、津軽地域の西端に位置する本市の広域的な位置づけを日常の暮らしの中で認識させてくれる大切なものです。

◇津軽平野の東端に位置し西に開けた本市では、斜面地をはじめ北西部の平坦地など、市内の各所から秀麗な岩木山の姿を望むことができ、四季や時間により様々な表情を楽しむことができます。山裾の美しい広がりを見望む景観は、黒石ならではの特別な眺めです。

図 全市的なシンボルとしての岩木山・八甲田





①北西部に広がる一面の水田を前景に裾野の広がりを感じられる



②市街地からも通りのアイストップに岩木山を望むことができる(甲徳兵衛町付近)



③東方には八甲田の山並みが見え、季節の移り変わりを感じる事ができる(株榎木横丁付近)



④浅瀬石川沿いからは八甲田連峰と岩木山を望むことができる

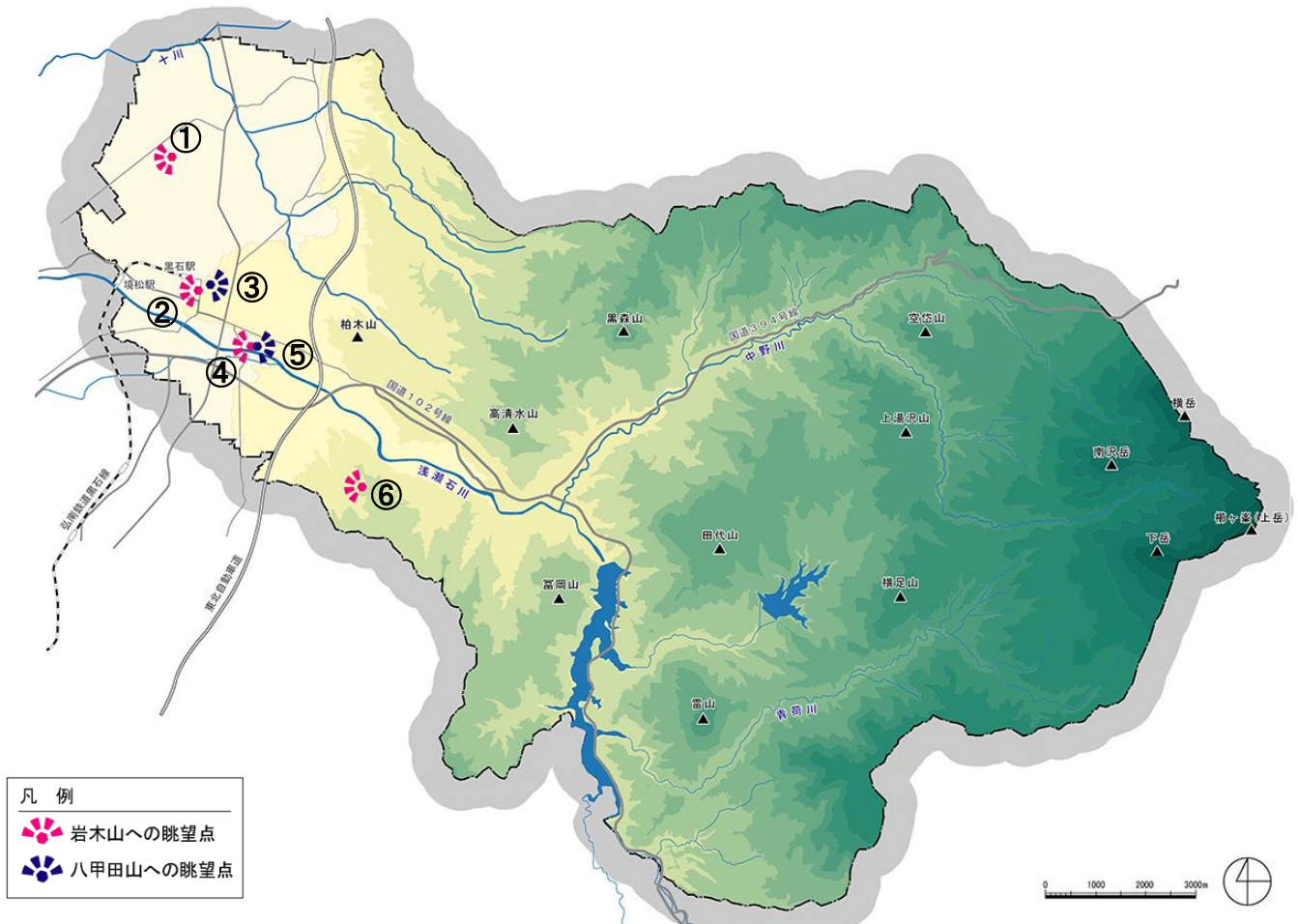


⑤浅瀬石川沿いは見通しの良いスポット



⑥観光りんご園は、津軽平野を広く見渡せるスポットの1つ

図 岩木山・八甲田山への主要眺望箇所





## 3-2 シンボル・ランドマーク

### (1) 歴史のシンボル

#### ●戦国の名残を今に伝える浅瀬石城址

- ◇浅瀬石城は浅瀬石川左岸の河岸段丘上に築かれた平山城であり、敷地は浅瀬石川が津軽平野に流入する谷口に位置しており、津軽平野を一望することのできる要地となっています。
- ◇浅瀬石城が築かれたのは、今から770年も前の仁治元年（1240）。慶長2年（1597）2月、当時津軽総地頭職大浦為信の2500余の兵を率いた攻撃に対し、第11代浅瀬石城主千徳政保は、2000余の兵で応戦。両軍死力を尽くしての戦いは大浦勢が勝り、浅瀬石城は落城しました。
- ◇現在、城址は全敷地がりんご畑になっており、農道が整備されているものの、当時の堀と思われる部分が道として利用されているなど当時の面影を忍ぶことができます。
- ◇昭和43年には、高賀野地区の高台に浅瀬石城址の石碑を建立し、翌年には、同所に館神社が建立され現在の姿となりました。

#### ●城下町黒石のシンボルである黒石城址

- ◇現在、陣屋跡は黒石市民文化会館の敷地に、馬場跡は御幸公園、藩祖信英の御廟所は黒石神社境内となっています。
- ◇陣屋は、黒石台地の際に位置し、南方には浅瀬石川が流れ、陣屋と浅瀬石川の間には宇和堰・小阿弥堰が流れており、地形を有効活用した合理的な場所に設けられたことがわかります。
- ◇また、現在の黒石市中心部の町割りは今日まで継承されており、市内の随所で当時の名残を垣間見ることができます。



浅瀬石城址の姿・歴史を伝える看板



昭和44年に建立された館神社。東方には津軽平野と岩木山を望む



りんご畑の中に佇む廣峯神社。かつて浅瀬石城下の町が周辺に広がっていたと考えられる



かつての馬場跡である御幸公園は、祭やイベント等にも活用されている



藩祖信英の御廟所である黒石神社



南西の宇和堰を挟んで立地していた蝦夷館跡

## (2) 地域のランドマークとなっている建造物・樹木

### ●地域で親しまれ大切に守られる象徴的な空間

- ◇市内には、今でも多くの「火の見櫓」があります。元町・甲徳兵衛町・山形町の3か所は、大正～昭和初期の建物であり、いずれも1階と2階部分は改修されていますが、ほぼ建築当時の姿を残しており、まち並みのアクセントとして重要な建造物となっています。
- ◇市街地に見られる伝統的なこみせを持つ妻入り商家や温湯温泉周辺の重厚な旅館は、商業や湯治の地としての厚みある歴史を今日まで伝えています。
- ◇英国の建築様式を参考に建築されたりんご史料館、茅葺屋根が特徴的な木造平屋建ての九戸家住宅、明治期の政治家によりつくられた金平成園（澤成園）などの特徴的な建造物が点在しています。
- ◇集落内には大小の神社や寺院などの信仰の場があり、周辺の樹木と一体となり、緑のまとまりとして地域のランドマークになっています。これらは、その地に生活する人々に守られ継承されている空間であることが感じられる貴重なものです。

### ●歴史の厚みを物語る樹木

- ◇県及び市の天然記念物に指定されている中野神社の大杉・モミの木をはじめとする寺院や神社の境内に生育する樹木や、高田家の糸ヒバ、村上家のイチイなどのほか、市内には各所に長い年月を経てきた巨木が存在しています。
- ◇東公園の2本のポプラ、浅瀬石城址付近の夫婦雷樹と呼ばれるポプラなどは黒石を代表する巨木です。



まち並みのシンボリック的存在である消防団第二分団第二消防部屯所(元町)



九戸家住宅主屋（国指定登録有形文化財）



つたに覆われた姿が印象的なりんご史料館



市の天然記念物に指定されている高田家の糸ヒバ



日本一の幹周を誇る東公園の2本のポプラ



周囲の樹木と相まって地域内のランドマークとなっている神社



### (3) 指定文化財

- ◇指定文化財は、国指定文化財 5 件、県指定文化財 10 件、市指定文化財 34 件があり、有形文化財（建造物、まち並み、庭園、工芸品、歴史的資源など）が最も多く指定されているほか、祭礼などの無形民俗文化財、社寺や個人宅庭先の巨木などの天然記念物が指定されています。
- ◇これらは、中町重要伝統的建造物保存地区なども位置する中心市街地に多く見られますが、市街地の東方に位置する温泉地、北西部の集落など、各地に点在しています。各集落の社寺や庚申塔なども多く指定されており、それぞれの地域における歴史を今に伝えるシンボルとなっています。
- ◇なお、中心市街地に位置する中町こみせ通りは、切妻、妻入りの町屋の正面に雪国特有の「こみせ」が取り付けられた独特なまち並みを有しており、昭和 62 年に日本の道百選、平成 17 年 7 月に重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。
- ◇中町には、国の重要文化財である「高橋家住宅」や市指定有形文化財「鳴海家住宅」をはじめ、旧松の湯、西谷家住宅、中村家住宅（中村亀吉酒造店）、盛家住宅など江戸時代中期から明治・大正・昭和初期に建てられた伝統的な建物が並んでいます。雪国特有の「こみせ」が取り付けられた独特なまち並みは、黒石のみならず、全国的にも貴重なものです。



高橋家住宅（国重要文化財）



妙経寺のカヤの木（県天然記念物）



馬場尻の庚申塔（市指定民族文化財）

表 指定文化財一覧

○国指定文化財

分類	種類	物件名	所在地	所有者
重要文化財	建造物	高橋家住宅	中町 38	高橋幸江
名勝	庭園	金平成園（金平成園）	内町 2-1	田村良子
重要伝統建造物群保存地区	街並み	黒石市中町伝統的建造物群保存地区	中町	黒石市
登録有形文化財	建造物	九戸家住宅主屋	甲大工町 10-1	九戸眞樹
登録記念物	庭園	鳴海氏庭園	中町 1-1	鳴海文四郎

○県指定文化財

分類	種類	物件名	所在地	所有者／保存団体
県重宝	建造物	法眼寺鐘楼堂	山形町 82	法眼寺
		法眼寺本堂	山形町 82	法眼寺
		黒石市消防団第三分団第三消防部屯所	甲徳兵衛町 3	黒石市
	工芸品	金梨子地牡丹紋散蒔絵衛府太刀拵	市ノ町 20	黒石神社
歴史資料	明暦二年津軽十郎左衛門拝領 山形黒石領外浜平内領検地帳	—	—	黒石市
		—	—	黒石市
県無形民俗文化財	大川原の火流し	大川原	大川原火流し保存会	
	黒石ねぷた	市ノ町 5-2	黒石青年会議所	
	上十川獅子踊	上十川	上十川獅子踊保存会	
県天然記念物	妙経寺のカヤの木	京町字寺町 12	妙経寺	
	中野神社の対植えのモミ	南中野不動館 26・3	中野神社	

○市指定文化財

分類	物件名	所在地	所有者／保存団体
有形文化財	浄仙寺仁王像	南中野字黒森下 84-3	浄仙寺
	藩祖信英公書状	—	黒石市
	藩祖信英公書状（二）	市ノ町 18	黒石神社
	日蓮聖人断簡	黒石市京町字寺町 12	妙経寺
	木庵性瑠像	温湯字鶴泉 12-4	薬師寺
	隠元隆琦像	温湯字鶴泉 12-4	薬師寺
	法眼寺開山堂	山形町 82	法眼寺
	法眼寺山門	山形町 82	法眼寺
	鳴海家住宅	中町 1-1	鳴海文四郎
	劔	山形町 82	法眼寺
	御神刀	市ノ町 18	黒石神社
	釣燈籠	市ノ町 18	黒石神社
	石燈籠	市ノ町 18	黒石神社
	駕籠	山形町 82	法眼寺
	津軽信敏建立の石碑	市ノ町 18	黒石神社
	藩祖信英公頌徳碑	市ノ町 18	黒石神社
	黒石神社の神門	市ノ町 20	黒石神社
	民俗文化財	黒石よされ踊元踊	黒石市
上十川の追分石		上十川字北原一番 38	派立二・三町内
薬師寺の石敢當碑		温湯字鶴泉 12-4	薬師寺
赤坂の庚申塔		赤坂字東池田 153	赤坂町内
竹鼻の五庚申塔		竹鼻字宮元 35-2	竹鼻敬神会
竹鼻の廻国納経塔		竹鼻字宮元 35-2	竹鼻敬神会
竹鼻の百観音碑		竹鼻字宮元 35-2	竹鼻敬神会
獅子が沢のしし石		上十川字長谷沢二番囲 80-6	上十川財産管理会
馬場尻の庚申塔		東馬場尻字馬場尻 1	馬場尻八幡宮
法眼寺の砂踏之碑	山形町 82	法眼寺	
天然記念物	中野のモミジ	南中野字不動館 26	中野神社
	大杉	南中野字不動館 26	中野神社
	石割楓	温湯字鶴泉 12-4	薬師寺
	袋のイチョウ	袋字富山 112-1	白山姫神社
	村上家のイチイ	上十川字柳沢 41	村上欣子
	サルスベリ	京町字寺町 15	感随寺
高田家の糸ヒバ	二双子字十川 82	高田正志	

出典：2014年市勢概要『くろいし』



### 3-3 市民の心に宿る景観

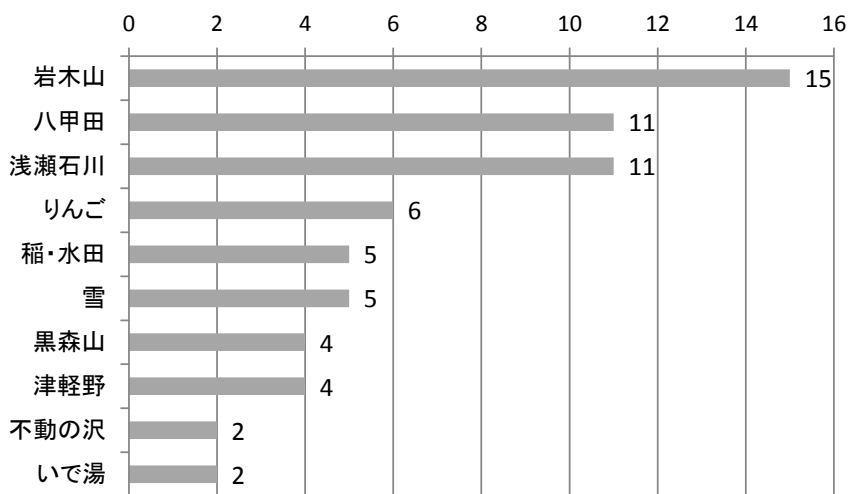
#### (1) 校歌・市民の歌に歌い込まれた地域のシンボル

◇校歌はその地域の風景や物事を歌い込んでいるものが多く、校歌の歌詞に登場する風景は、地域の多くの人々に共有される、その地域らしい景観像を反映していると考えられます。

◇黒石市内の統合前の20の小中高等学校の校歌と、昭和58年に告示された黒石市民の歌を対象に、歌詞の中にどのような風景や物事が歌い込まれているか調べたところ、もっとも多く見られたのは岩木山(15)であり、次いで八甲田山(11)、浅瀬石川(11)と地域の根幹である山や川が多く、これらは全市的なシンボルとして親しまれています。また、りんご(6)や稲・水田(5)など、地域に深く根付く生業に関するものも多く見られます。そのほかに、黒森山、不動の沢、いで湯、田代の山など、地区ごとに特徴のある地域的なシンボルも見られます。

◇学校の所在地と、校歌に歌われるシンボルとの関係を見ると、岩木山、八甲田は黒石台地崖上の平野部全域の小中学校等に見られ、ほとんどの校歌の中に歌われています。浅瀬石川や黒森山などは、それらを望むことができる場所に位置する小中学校等に見られ、校歌に歌われるシンボルは、小中学校等の位置する周辺の地域と深く関連していることがわかります。

表 校歌・市民の歌に歌い込まれた地域のシンボル



◆その他、校歌・市民の歌の中に歌われているシンボル(各1)

田代の山／すずらん／山の湖／津軽の海／高津鳥／津軽の里／ねふたよされ





## (2) くろいし魅力百選

◇くろいし魅力百選は、「広報くろいし」1日号（1997.5.1～2006.11.1）に特集として掲載されていた記事をまとめたものです。

◇選定されたものは、中心市街地と黒石温泉郷にやや多く見られますが、市内全域に点在しています。対象は、文化財や社寺などの歴史・文化的資源や温泉等の観光・交流施設が多く、公共施設や公園、産業や文化的な施設、祭りやイベント、眺望など、黒石の多様な魅力が現れています。

表 くろいし魅力百選の分類

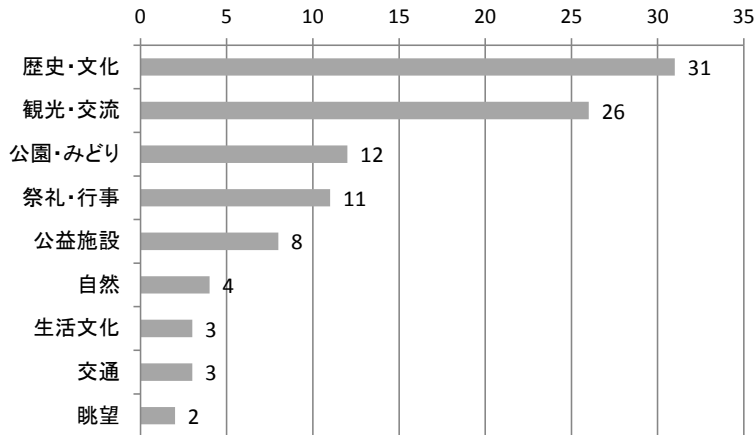
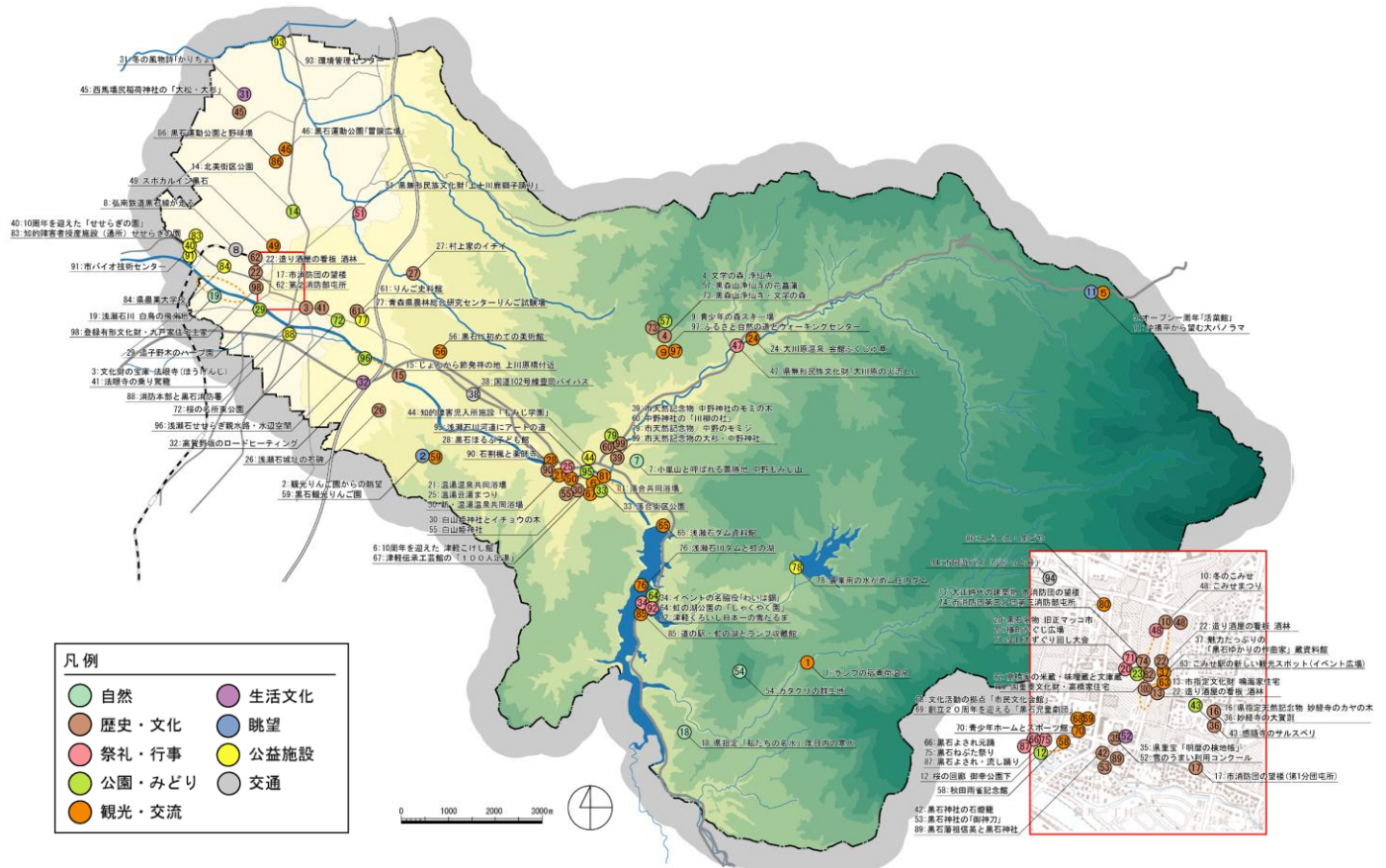


図 くろいし魅力百選



## 3-4 連綿と受け継がれる地域の祭りと行事

### (1) 「おらが一番」の『ねふた』と『よされ』

- ◇黒石を代表する祭りであるねふたとよされは、地域に深く刻まれた心象的なシンボルであり、大切に守り伝えられてきたものです。
- ◇ともに夏を彩る祭りであり、御幸公園、中町こみせ通りを中心として、市内を華麗に練り歩き、舞い踊ります。祭りの時期、こみせ通りには市内の小学生が制作したねふた灯籠が飾られ、まち並みを鮮やかに演出しています。
- ◇これら「こみせ通りを彩るねふたとねふた灯籠」は、古くからまもり育てられてきた優れた風景と子どもたちの想いがシンクロした景観として高く評価され、平成 23 年に第 3 回ふるさとあおもり景観賞 まち並み・地域景観部門を受賞しています。
- ◇黒石のねふたは、70 数台の規模を誇り、人形ねふたと扇ねふたが混在する形態は県下でも独特のものとなっています。小規模ながらその造り方は繊細で色彩も鮮やかな黒石衆自慢の県無形民俗文化財です。
- ◇日本三大流し踊りである黒石よされは、豊年満作を願う盆踊りの一種であり、現在のように中心市街地を踊り歩く「流し踊り」の形になったのは昭和 35 年からです。平成 5 年には、「黒石よされニューバージョン」が創作され人気を集めるなど、老若男女を問わず楽しめる踊りの祭典として市民に親しまれています。

### (2) 生業や地縁と深く結びついた各地域の祭り

- ◇黒石の集落は各地域がまちとしてのまとまりを有しており、それぞれが厚みのある文化を形成してきました。
- ◇地域の生業や地縁と深く結びついた祭りには、県無形民俗文化財に指定されている上十川獅子踊り、大川原の火流しのほか、温湯丑湯祭りなどがあり、いずれも大切に守り受け継がれてきた独特なものです。

### (3) 季節を楽しむ名物行事

- ◇古くは江戸時代から開かれていたと伝えられる黒石名物「旧正マッコ市」は、日頃の感謝の気持ちを含め、旧正月の買い物客にたくさんの景品を付ける黒石商人の心意気が原点となっています。津軽弁でお年玉を意味する“マッコ”にちなんだこの市は、黒石商人の感謝と心意気とともに脈々と受け継がれています。





市内を扇や人形型など様々な形態のねぷたが彩る



夏になるとこみせ通りは小学生手づくりのねぷた灯籠で鮮やかに飾られる



こみせは祭りの際に観覧の場としても使われる



よされは老若男女が楽しめる祭りとして、時代とともに形を変えながら多くの市民に親しまれている

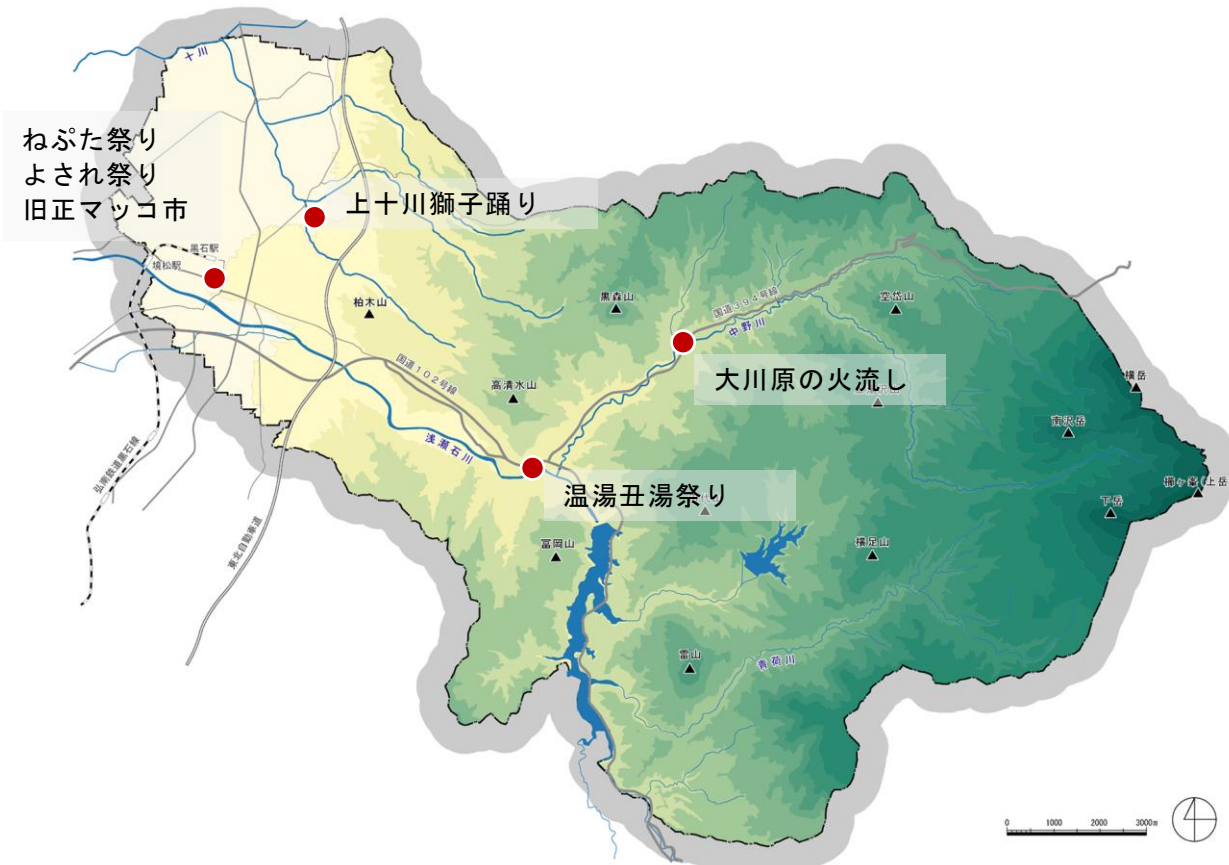


400年以上もの歴史がある名湯・温湯温泉の伝統行事、温湯丑湯祭り



昭和58年に県の無形民俗文化財に指定された大川原の火流し

図 主な祭りの開催される場所



## 3-5 暮らしに彩りを添える四季の景観

本市は、厳しい気象条件により、11月の初雪から数ヶ月の降雪期を経て3月頃までは雪に覆われるため、いわゆる「無彩色」の期間があります。季節ごとに刻々と変化する四季の景観は、黒石ならではの暮らしや生活文化を生み出し、季節ごとの楽しみとして数多くの風習や行事が行われてきました。暮らしに彩りを添える四季の変化は、その時々にはしか見ることのできない情緒的な景観を生み出しています。

### (1) 生業・産業

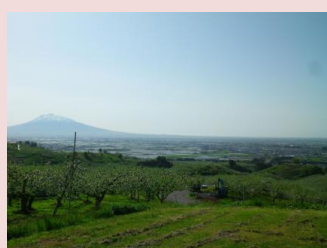
- ◇水田とりんご畑が生み出す季節感、本市の代表的な景観の1つです。水田は、春のしろかき・田植えから黄金色の稲穂が実るまでの色彩の移ろいや、秋から冬にかけてのりんごの赤い実と雪のコントラストが美しい景観を生み出しています。
- ◇また、厳冬期から開始される酒造の仕込みや新酒の完成を知らせる酒林（杉玉）も、生業の季節感を演出しています。

### (2) 風物

- ◇さくらやもみじ等の自然を生かしたイベント、ねぶたやよされ等の祭、冬の到来を告げるラッセル車など、季節を感じられる風物が四季を通じて多数あります。



黒石さくらまつり



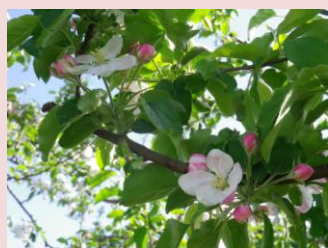
田植えとりんごの花が咲く春の眺望（観光りんご園）



夏の青々とした水田と集落と里山（上山形付近）



夏の一大イベントクラシックカーinこみせ



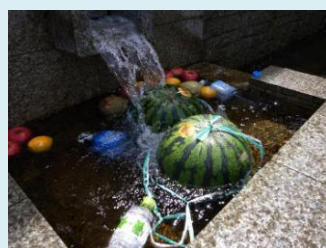
桜の後に満開を迎えるりんごの花



道沿いに植えられた芝桜



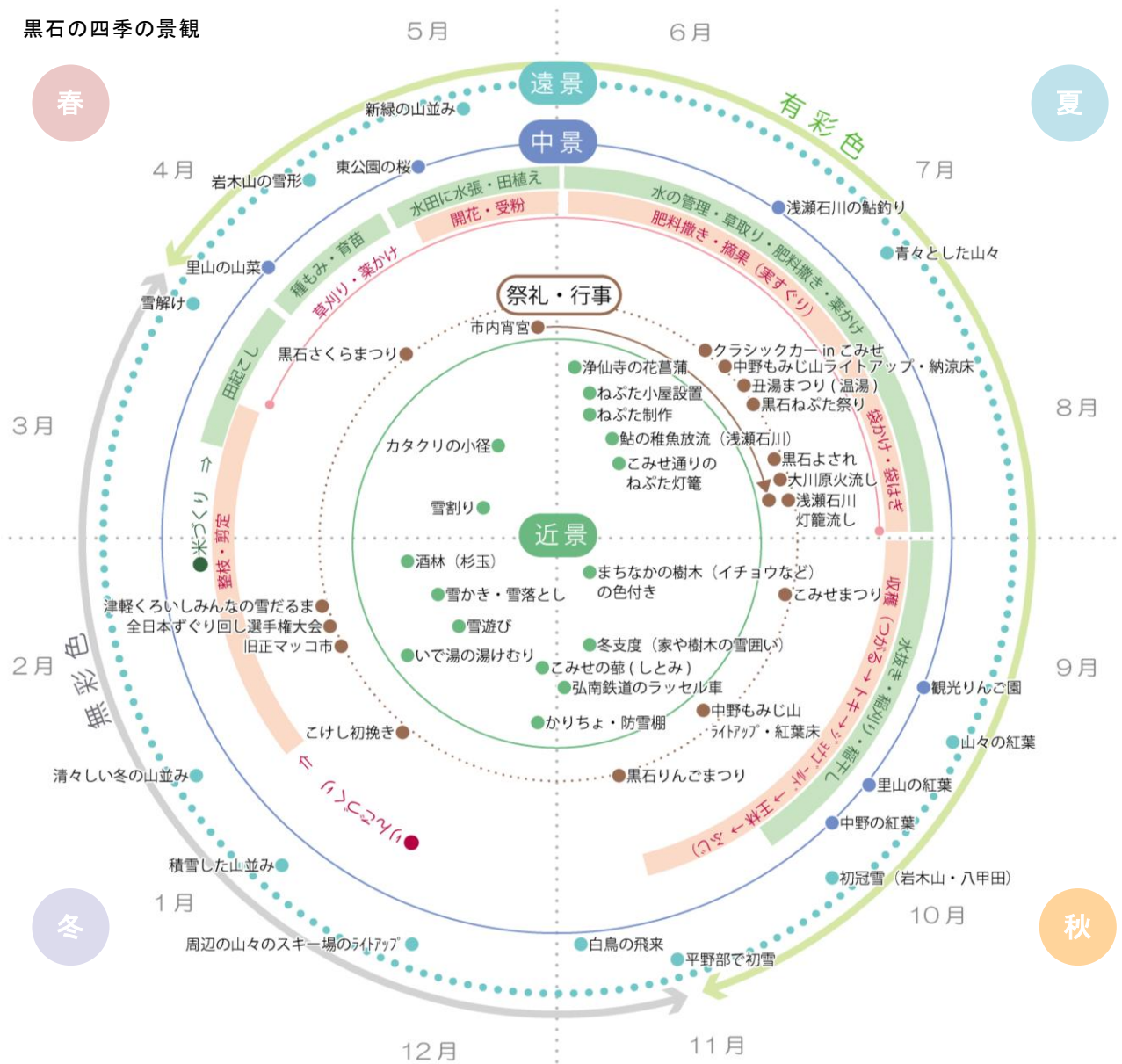
夏を彩る黒石ねぶた



涼しさをもたらす八甲田の伏流水（こみ泉）



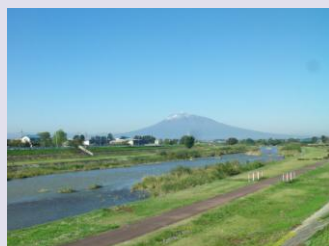
表 黒石の四季の景観



まちのみどりと色付く山並み (市ノ町付近)



色付き始めたりんご園 (観光りんご園)



初冠雪の岩木山と浅瀬石川 (千歳橋付近)



造り酒屋のシンボルとなっている杉玉



刈り入れた稲を雨から守る (上十川付近)



実りの時期の水田と斜面地のりんご畑 (赤坂付近)



冬の到来を告げる弘南鉄道のラッセル車



旧松の湯の雪下ろし